



Be fearless ~伝統と共に煌めく未来へ~

ホモ・サピエンス (賢い人間)

皆さん知ってのとおり、人間の学術名はラテン語で「ホモ・サピエンス」です。意味は「賢い人間」です。

ではなぜ、人類の祖先と言われる猿人、原人は滅び、新人のホモ・サピエンスだけが生き残ったのでしょうか。諸説ありますが、人類の祖先は、変化に対応する力、また社会的なつながり、コミュニケーションによって問題を解決していく事ができたからと言われます。

現代に生きる私たちは、ホモ・サピエンス (賢い人間) の子孫です。途方もない長い年月を生き抜いてきているのです。

とにかく学校生活では、教科の学習ができること、成績が良いことが、素晴らしいことで高く評価され、頭がいいことが賢いことと同等に捉えられています。確かにそういった一面がありますが、「人生における賢い」とは教科の学習ができることだけではありません。物事の道理が理解でき、こうした行動はいい結果に繋がらない、社会的に認められないと考える事ができ、行動を抑制、制御したり、他の人たちと適切なコミュニケーションをとって協働や連携して物事に取り組めることだと思います。

生き方の賢い人になりましょう。

ホモ・ルーデンス (遊ぶ人)

歴史学者のヨハン・ホイジンガーという人が次のようなことを述べています。

人間は何か楽しいことに熱中し、主体的に行動することで、学力テストで計ることができない自己肯定感や忍耐力、自制心、共感力、社会性などの「生きる力」「非認知能力」が養われると。これらの内容は、長い人生を生きていく上で大変重要なものです。

中国の古典「論語」にも、次のような言葉があります。

**「之(これ)を知る者は之を好む者に如(しか)かず。
之を好む者は之を楽しむ者に如かず」**

意味は、何かを知っている、知識がある人より、そのことが好きな人の方が勝っており、そのことが好きな人より、そのことを楽しんで行っている人の方が、さらに優れているということです。

折しも文化祭「むらさき祭」が26日(金)・27日(土)と行われます。生徒の皆さんはそれぞれ、何らかの活動に関わり準備を進めていることでしょう。しっかり楽しみながら取り組めるといいですね。主体的に考え、能動的に活動すれば、あなたの中の自分でも気づいていない、よい資質や能力が磨き高められることでしょう。

「我以外皆我師也」(われいがい みな わがしなり)

上の言葉は、「宮本武蔵」「三国志」の小説で有名な作家吉川英治氏の言葉です。

自分以外の人から何かを学ぼうとする、謙虚な姿勢を感じます。その人の偉大さを思います。

人が精神的に成長する上で大事なことは、自分の至らなさ、不適切な言動に対して指摘された時どう受け止めることができるかです。

とにかく人は「自分^が」「俺^が」「私^が」といった「我」が強く働き、なかなかその人のためにと周りの人がよかれと助言されたり、指導されたりしたことが受け入れられず、貴重な成長の機会を逃してしまいがちです。そして、同じ過ちを繰り返したり、時と場所、相手や状況を変えて似たようなつまずきや失敗を繰り返します。

天、神といった実体のないサムシング・グレート（何か偉大な存在）は、言葉を発することはありません。人の口を借りて自分に語りかけていると捉えたとき、何か大きな気づきがあると思います。

自分にとって「耳痛い内容」の中にこそ、自分が見ようとしない、気づきたくない隠されたいやな自分があるのかもしれません。

皆さんは、自分に関わりがあるなしに関係なく、学校で働いておられるあらゆる人に対して同じように、礼儀正しく接しているでしょうか。相手に対して丁寧に対応をしたり、ぞんざいな態度をしたり、そこに相手が存在していないかのように無視して通り過ぎたりと、態度を変えていませんか。そういった、カメレオンのように相手によってあからさまに態度を変える人をどう思いますか。信頼できますか。決して美しい態度とは言えません。

外見をよりよく見せようとすることも大事ですが、その人の心の美しさが表情や態度、しぐさに表れてこそ真の輝き、美しさとなると思います。

心を育み、脳を活性化する読書

親子は最も身近な存在でありながら、子どもが年齢を重ね大きくなるにつれて、身体的にも精神的にも距離ができてきます。それはごく自然なことですが、互いに何気ない会話をしたり、思いを機会ある毎に語ったりしなければ、理解し合えず、分かり合えません。

お互い分かっているつもりではなく、意識して話す場をつくりましょう。



『海が見える家』 井本邦昭 著 サンマーク出版

大卒で就職し、仕事があまりにブラックなためすぐにやめると同時に、見知らぬ誰かから父の訃報の連絡があり、慌ただしく展開していきます。父が住んでいた、海が見える寂れた別荘地の家を整理する中で、その地に関係する人々との関わりの中で、父の面影を追い、理解しつつ、幸せの価値観に気づいていく物語です。親子関係、人生について考えさせられます。